

Dell Wyse Management Suite

バージョン 1.1 移行ガイド



メモ、注意、警告

① | **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

△ | **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。

⚠ | **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

著作権 © 2017 すべての著作権は Dell Inc. またはその子会社にあります。Dell、EMC、およびその他の商標は、Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

1 はじめに	4
移行の概要.....	4
2 移行の前提条件	6
Wyse Management Suite のライセンス要件.....	6
Wyse Device Manager のサポート環境.....	7
Wyse Management Suite のサポート環境.....	7
データインポートのサポート対象環境.....	7
デバイス移行のサポート環境.....	8
3 Wyse Management Suite インポートツールの使用方法	9
主な機能.....	9
Wyse Management Suite インポートツールをインストールするための前提条件.....	9
Wyse Management Suite インポートツールの制限事項.....	10
Wyse Management Suite インポートツールのインストール.....	10
Wyse Management Suite インポートツールの使用開始.....	10
4 データのインベントリのインポート	12
RSP パッケージのインポート.....	12
RSP パッケージのインポートステータスの表示.....	13
制限.....	13
Windows ベース WCM リソースのインポート.....	13
Windows ベース WCM リソースのインポートステータスの表示.....	14
ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート.....	14
既存の WDM ビューの使用法.....	15
WDM デフォルトグループタイプの使用法.....	15
ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートステータスの表示.....	16
ロールバックの機能.....	17
5 Wyse Device Manager から Wyse Management Suite へのデバイスの切り替え	18
対応オペレーティングシステム.....	18
RSP パッケージの ThinLinux デバイスへの導入.....	19
RSP パッケージの SUSE Linux デバイスへの導入.....	19
RSP パッケージの Windows ベースデバイスへの導入.....	19
INI パラメータの ThinOS デバイスへの導入.....	20
6 移行後の処理	21
7 Wyse Management Suite インポートツールのアンインストール	22
8 トラブルシューティング	23

はじめに

このガイドでは、Wyse Device Manager (WDM) から Wyse Management Suite 環境への移行について説明します。このガイドの対象読者は、管理者権限のあるエンタープライズカスタマーです。各種 Thin Client オペレーティングシステム、Wyse Device Manager、クラウドインフラストラクチャ、ネットワークテクノロジー、ファイルシステムパーミッション、ユーザー認証テクノロジーに関する知識が必要です。

デルは、WDM バージョン 5.7.2 以降から、Wyse Management Suite バージョン 1.1 に移行することをお勧めします。

このガイドでは、データのインポートとは、既存の WDM 環境から新規 Wyse Management Suite 環境に、データのインベントリをインポートするプロセスをさします。データのインベントリには、RSP パッケージ、Windows ベース Wyse Configuration Manager (WCM) リソース、WDM ビューで利用可能なグループおよびデバイス情報、Windows ベースプロファイルがあります。

① | **メモ:** WDM からインポートできるのは、壁紙および Windows ワイヤレスプロファイルリソースのみです。

すべてのデータのインベントリを Wyse Management Suite にインポートしたら、デバイスを WDM から Wyse Management Suite に切り替えます。

① | **メモ:** このガイドでは、Windows とは次のオペレーティングシステムをさします。

- Windows Embedded Standard 7 (32 ビット)
- Windows Embedded Standard 7 Professional (64 ビット)
- Windows Embedded 8 Standard (64 ビット)
- Windows 10 IoT Enterprise (64 ビット)

移行の概要

全体的な移行プロセスには、次のようなタスクがあります。

- 1 移行要件を確認します。「[前提条件](#)」を参照してください。
- 2 ライセンス要件を確認します。「[Wyse Management Suite のライセンス要件](#)」を参照してください。
- 3 インポートツールをインストールする前に、制限事項を確認します。「[制限](#)」を参照してください。
- 4 サーバのオペレーティングシステムに、Wyse Management Suite インポートツールをダウンロードしてインストールします。「[Wyse Management Suite インポートツールの使用方法](#)」を参照してください。
- 5 Wyse Management Suite インポートツールを起動します。「[Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)」を参照してください。
- 6 Wyse Device Manager からデータのインベントリをインポートします。「[データのインベントリのインポート](#)」を参照してください。
 - RSP パッケージをインポートします。「[RSP パッケージのインポート](#)」を参照してください。
 - Windows ベース WCM リソースをインポートします。「[Windows ベース WCM リソースのインポート](#)」を参照してください。
 - ビューおよび Windows ベースプロファイルをインポートします。「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート](#)」を参照してください。
- 7 インポートステータスを表示して、保留中およびインポートに失敗しデータのインベントリをインポートします。
 - RSP パッケージのインポートステータスを表示します。「[RSP パッケージのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。
 - Windows ベース WCM リソースのインポートステータスを表示します。「[Windows ベース WCM リソースのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。
 - ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートステータスを表示します。「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。
- 8 Thin Client インフラストラクチャに基づいて、デバイスを WDM から切り替えます。「[Wyse Device Manager から Wyse Management Suite へのデバイスの切り替え](#)」を参照してください。
 - Windows で実行中のデバイスを切り替えます。「[Windows ベースデバイスへの RSP パッケージの導入](#)」を参照してください。

- ThinLinux で実行中のデバイスを切り替えます。「[ThinLinux デバイスへの RSP パッケージの導入](#)」を参照してください。
 - SUSE Linux Enterprise で実行中のデバイスを切り替えます。「[SUSE Linux デバイスへの RSP パッケージの導入](#)」を参照してください。
 - ThinOS で実行中のデバイスを切り替えます。「[INI パラメータの ThinOS デバイスへの導入](#)」を参照してください。
- 9 Wyse Device Manager から Wyse Management Suite にインポートデータされたデータを検証します。「[移行後の処理](#)」を参照してください。
 - 10 (オプション) Wyse Management Suite インポートツールをアンインストールします。「[Wyse Management Suite インポートツールのアンインストール](#)」を参照してください。

移行の前提条件

次の Wyse Device Manager (WDM) および Wyse Management Suite の移行要件を満たしていることを確認します。

• Wyse Device Manager

- Wyse Management Suite への移行は、WDM バージョン 5.7.2 以降でサポートされます。それよりも前のバージョンの WDM を使用している場合は、WDM をバージョン 5.7.2 以降にアップグレードします。
- WDM Enterprise Edition をネットワークにインストールする必要があります。
- WDM に進行状態のスケジュールされたジョブまたはタスクがある場合は実行できません。

• Wyse Management Suite

- Wyse Management Suite バージョン 1.1 移行がインストールされている必要があります。WDM から Wyse Management Suite バージョン 1.0 への移行はできません。
- ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートには、テナントが1つである必要があります。複数テナントはサポートされていません。
- テナントには、グループおよびデバイスを作成したユーザーがあってははいけません。
- テナントには Pro ライセンスが必要です。

① **メモ: Pro ライセンスは、Thin Client、IoT エッジゲートウェイ、組み込みボックス PC 用の Wyse Management Suite の Enterprise バージョンにアクセスするための有料ライセンスです。**

- Wyse Management Suite ローカルリポジトリには、RSP パッケージをインポートする Wyse Device Manager のディスク空き容量以上の空き容量が必要です。リモートリポジトリはサポートされません。
- Wyse Management Suite には、Wyse Device Manager 以上の数のデバイスライセンスがある必要があります。

トピック :

- [Wyse Management Suite のライセンス要件](#)
- [Wyse Device Manager のサポート環境](#)
- [Wyse Management Suite のサポート環境](#)
- [データインポートのサポート対象環境](#)
- [デバイス移行のサポート環境](#)

Wyse Management Suite のライセンス要件

データをインポートする前に、Wyse Management Suite インポートツールは、Wyse Management Suite のライセンスを確認します。Wyse Management Suite サーバは、ライセンスのカテゴリとプライベートクラウドのインストールタイプに応じて、有効期限の日付を確認します。移行アクティビティの実行に適切なライセンスがあることを確認してください。

次の場合、Wyse Management Suite インポートツールは移行を実行します。

- Pro ライセンスでインストールされたプライベートクラウドで、Thin Client ライセンスはアクティブ。
- Pro ライセンスでインストールされたプライベートクラウドで、Thin Client ライセンスの有効期限が切れている。
- Pro トライアルライセンスでインストールされたプライベートクラウドで、Thin Client トライアルライセンスの有効期限は切れていない。

次の場合は、Wyse Management Suite インポートツールは移行を停止します。

- 標準ライセンスでインストールされたプライベートクラウド。
- Pro トライアルライセンスでインストールされたプライベートクラウドで、Thin Client トライアルライセンスの有効期限が切れている。

Wyse Device Manager のサポート環境

表 1. Wyse Device Manager のサポート環境

オペレーティングシステム	データベース	Wyse Device Manager
<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 R2 SP1 Enterprise Edition Windows Server 2012 Standard Edition Windows Server 2012 R2 Standard Edition Windows 7 Enterprise SP1 (32 ビット) Windows 7 Enterprise SP1 (64 ビット) 	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft SQL Server 2014 Express Microsoft SQL Server 2012 Microsoft SQL Server 2012 Enterprise for High Availability Microsoft SQL Server 2008 R2 (英語バージョン) Microsoft SQL Server 2008 Enterprise (32 ビット) 	Wyse Device Manager バージョン 5.7.2 以降

Wyse Management Suite のサポート環境

表 2. Wyse Management Suite のサポート環境

オペレーティングシステム	Wyse Management Suite
<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 	Wyse Management Suite v1.1

データインポートのサポート対象環境

表 3. データ移行

データ	Wyse Device Manager (WDM)	Wyse Management Suite	サポート対象プラットフォーム	追加情報
イメージパッケージ	パッケージは イメージ カテゴリに存在。	イメージパッケージは、ローカルリポジトリの OSImages/valid folder に移動。	Windows Embedded Standard、Windows 10 IoT Enterprise、ThinLinux	Raw パッケージは、Wyse Management Suite ローカルリポジトリの rspPackages/valid folder に移動。
アプリケーションパッケージ	パッケージは その他のパッケージ カテゴリに存在。	アプリケーションパッケージは、ローカルリポジトリの rspPackages/valid folder に移動。	Windows Embedded Standard、Windows 10 IoT Enterprise、ThinLinux	なし
構成パッケージ	パッケージは デバイス構成 カテゴリに存在。	構成パッケージは Wyse Management Suite にプロファイルとして移動されており、グループに構成パッケージを割り当てる必要がある。	Windows Embedded Standard、Windows 10 IoT Enterprise	なし
デフォルトパッケージ	パッケージはエージェントのアップグレード用にマーク付けされており、エージェントのアップグレードを起動。	移行されない。	なし	Wyse Management Suite には、デフォルトのエージェントアップデートパッケージが入っている。



データ	Wyse Device Manager (WDM)	Wyse Management Suite	サポート対象プラットフォーム	追加情報
プロファイル	Profile Manager を通じてブッシュされた デバイス構成プロファイル。	プロファイルは設定ポリシーに移動。	Windows Embedded Standard、Windows 10 IoT Enterprise	vWorkspace のリモート接続は移行できない。
プロファイルに関連付けられたリソース	壁紙および Windows ワイヤレスプロファイル。	リソースはローカルリポジトリのデータフォルダに移動。	Windows Embedded Standard、Windows 10 IoT Enterprise	使用許諾契約書およびロゴは、Windows ベースのオペレーティングシステムには適用されません。

デバイス移行のサポート環境

表 4. デバイスの移行

デバイスのオペレーティングシステム	Wyse Device Manager (WDM) でサポート	Wyse Management Suite でサポート	WDM から Wyse Management Suite への移行
<ul style="list-style-type: none"> Windows Embedded Standard 2009 Windows XP Embedded Windows CE 	はい	いいえ	いいえ
<ul style="list-style-type: none"> Windows Embedded Standard 7 (32 ビット) Windows Embedded Standard 7 Professional (64 ビット) Windows Embedded 8 Standard (64 ビット) Windows 10 IoT Enterprise (64 ビット) 	はい	はい	はい
Windows Embedded 8 Standard (32 ビット)	はい	いいえ	いいえ
SUSE Linux Enterprise 11 SP1	はい	いいえ	いいえ
SUSE Linux Enterprise 11 SP2	はい	いいえ	そのとおりです。WDM で、デバイスを SUSE Linux Enterprise 11 SP3 にアップグレードします。
SUSE Linux Enterprise 11 SP3	はい	はい	はい
<ul style="list-style-type: none"> ThinOS ThinOS PC-over-IP (PCoIP) ThinOS Lite 	はい	はい	はい
ThinLinux	はい	はい	はい
Teradici 4.x	はい	いいえ	いいえ
Teradici 5.x	はい	いいえ	いいえ

Wyse Management Suite インポートツールの使用方法

Wyse Management Suite インポートツールは、管理者が Wyse Device Manager (WDM) から Wyse Management Suite にデータをインポートするためのソリューションです。このツールを使用すると、SP パッケージ、Windows ベース WCM リソース、WDM ビューのグループおよびデバイス情報、Windows ベースプロファイルをインポートできます。

トピック：

- [主な機能](#)
- [Wyse Management Suite インポートツールをインストールするための前提条件](#)
- [Wyse Management Suite インポートツールの制限事項](#)
- [Wyse Management Suite インポートツールのインストール](#)
- [Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)

主な機能

Wyse Management Suite インポートツールの主な機能は次のとおりです。

- Wyse Device Manager (WDM) から Wyse Management Suite にデータをインポートするためのユーザーインターフェイス。
- WDM から最大 50,000 台のデバイスをインポートする機能。
- WDM から最大 100 GB のパッケージをインポートする機能。
- WDM から最大 1,500 のグループをインポートする機能。
- 既存のビューまたはデフォルトグループタイプを使用して、WDM からデバイスをインポートする機能。
- グループレベルの階層、設定、デバイスをプレビューウィンドウに表示する機能。プレビューウィンドウには、Wyse Management Suite へのトポロジーおよび設定の割り当て方法に関する情報が表示されます。
- データのインポートステータスを表示する機能。
- Wyse Management Suite にインポートされたすべてのグループ、デバイス、Windows ベースプロファイルを消去する機能。
- WDM からのパッケージおよびリソースのインポートに、HTTP/HTTPS および FTP プロトコルをサポート。
- WDM との接続に Windows および SQL 認証をサポート。

Wyse Management Suite インポートツールをインストールするための前提条件

Wyse Management Suite インポートツールは、サーバのオペレーティングシステム要件とディスク容量要件を満たす任意のシステムにインストールできます。

- ディスクの空き容量が 2 GB 以上あること。
- Microsoft .Net Framework 4.5 がインストール済みなこと。

対応サーバオペレーティングシステムは、次のとおりです。

- Windows Server 2012 R2



Wyse Management Suite インポートツールの制限事項

Wyse Management Suite インポートツールには、次のような制限があります。

- JSON 形式の Windows ベースプロファイルのみ Wyse Configuration Manager (WCM) からインポートできます。ThinOS および ThinLinux WCM プロファイルは、インポートできません。
- XML 形式の Windows ベースワイヤレスプロファイルのみ WCM からインポートできます。
- スケジュール済みのジョブは、Wyse Device Manager (WDM) からインポートできません。
- ライセンスを検証する場合、インポートツールは Wyse Management Suite のサポート対象外デバイスをフィルタしません。ツールは、Wyse Management Suite で使用できるライセンスサブスクリプションの総数と WDM からインポートするデバイス総数に基づいてライセンスを確認します。

Wyse Management Suite インポートツールのインストール

Wyse Management Suite インポートツールをインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 [Dell Digital Locker](#) にサインインして、サーバのオペレーティングシステムに Wyse Management Suite インポートツールのインストーラをダウンロードします。
- 2 インストーラを解凍します。
- 3 `WMS_Import_Tool.exe` ファイルを実行します。

ようこそ画面が表示されます。

① メモ: サポート対象のサーバのオペレーティングシステムで Wyse Management Suite インポートツールのインストーラを実行していない場合は、インストーラにより次のメッセージが表示されます。

WMS インポートツールは、このバージョンのオペレーティングシステムをサポートしていません。インストールを中止します。

この問題を解決するには、サポート対象のサーバのオペレーティングシステムをインストールしてから、インポートツールのインストールを続行します。

- 4 ライセンス契約を読むには、[デルエンドユーザーライセンス契約](#) リンクをクリックします。
- 5 **次へ** をクリックします。
デフォルトインストールパス (<Program Files>\Dell\WMS\ImportTool) が表示されます。
- 6 カスタムインストールパスを選択する場合は、[参照](#) をクリックします。
- 7 **次へ** をクリックします。
インストーラは、.NET Framework 4.5 がインストールされていることを確認します。.NET Framework 4.5 がインストールされていない場合は、サイレントモードでインストールされます。インストールが完了すると、**インストールの完了** ページが表示されます。Wyse Management Suite インポートツールを起動するショートカットアイコンが、サーバデスクトップに作成されます。
- 8 **起動** をクリックします。

Wyse Management Suite インポートツールの使用開始

- 1 Wyse Management Suite インポートツールを起動します。

① メモ: インポート処理中に、Wyse Device Manager (WDM) のマスターリポジトリが使用され、HTTP/HTTPS または FTP に設定されている必要があります **共通インターネットファイルシステム (CIFS) プロトコルはサポートされません。**

- 2 **SQL Express のサーバ\DBname** フィールドに、設定した WDM サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。WDM データベースを Microsoft SQL Server に作成した場合は、サーバ名のみを入力します。WDM データベースを Microsoft SQL Server Express に作成した場合は、サーバ名とデータベースのインスタンス名を入力します。

たとえば、`VM\RapportDB` と入力します。

WDM データベースを Microsoft SQL Server に作成し、カスタムポートに設定した場合は、サーバ名に続いてカンマまたはコロンの区切ったカスタムポート番号を入力します。たとえば、`10.0.0.411,12345` または `10.0.0.4 0.411:12345` のようにします。ここで、`10.0.0.411` は WDM サーバの IP アドレス、`12345` はカスタムポート番号です。

WDM データベースを Microsoft SQL Server Express に作成し、カスタムポートに設定した場合は、サーバ名に続いてカンマまたはコロンで区切ったカスタムポートを入力します。たとえば、10.0.0.411\rappport,12345 または 10.0.0.411\rappport:12345 のようにします。ここで、10.0.0.411 は WDM サーバの IP アドレス、rappport はデータベース名、12345 はカスタムポート番号です。

① メモ: WDM がインストールされているサーバのオペレーティングシステムで最初にインポートツールを使用する場合、Wyse Device Manager サーバの URL フィールドに自動的に WDM サーバの URL が入力されます。ログイン画面の WDM サーバ情報を変更する場合に、WDM サーバの URL がログイン画面に入力されることはありません。

3 ユーザー名 フィールドには、WDM データベースにログインするユーザー名を入力します。

4 パスワード フィールドには、WDM データベースにアクセスするパスワードを入力します。

① メモ: インポートツールは、WDM データベースに保存されている資格情報で入力された資格情報を検証します。

5 接続に SQL 認証ではなく Windows 認証を使用する場合は、**Windows 認証を使用** チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、ユーザー名およびパスワードのフィールドは無効になります。信頼された接続が 2 つのドメイン間で有効になっている場合は、同ドメインでも別ドメインでも Windows 認証が動作します。ただし、リモートデータベースにユーザーとしてすでに追加されているアカウントを使用して、システムにログインする必要があります。

6 WMS サーバの URL フィールドには、設定した Wyse Management Suite サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

① メモ: Wyse Management Suite サーバが 443 以外の別ポートに設定されている場合は、サーバアドレスにポート番号を入力する必要があります。たとえば、<https://10.0.0.444:567> の 567 はカスタムポート番号です。

7 管理者ユーザー名 フィールドには、Wyse Management Suite サーバにログインする管理者ユーザー名を入力します。

たとえば、admin@dell.com と入力します。

8 管理者パスワード フィールドには、Wyse Management Suite サーバにアクセスする管理者パスワードを入力します。

9 **接続** をクリックして資格情報を認証します。

Wyse Device Manager インポートタスク 画面が表示されます。

① メモ: 誤った資格情報を入力した場合、ライセンス要件を満たしていない場合、インポートツールが WDM サーバ、WDM データベース、WDM リポジトリ、Wyse Management Suite サーバに接続できない場合は、エラーメッセージが表示されます。

インポートツールは、ログイン画面で入力された情報を、パスワードを除いて C:\ProgramData\WMS-Import\WMSMigrationInfo.json に保存します。エラーログは、C:\ProgramData\WMS-Import フォルダに保存されます。

データのインベントリのインポート

データのインポートは、Wyse Device Manager (WDM) から Wyse Management Suite にデータのインベントリをインポートするプロセスです。

WDM インポートタスク 画面から、各タスクを個別に実行できます。ただし、ビューおよび Windows のプロファイルのインポート前に、Windows ベース WCM リソースをインポートする必要があります。

各グループとそのサブグループに対して、次の動作が行われます。

- Wyse Management Suite は、グループトークンが有効なグループを作成します。グループトークンとグループ説明は自動的に生成されます。
- ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートに可能なトランザクションは 1 つだけです。グループ、デバイス、プロファイルのインポート後にデータを再度インポートする場合は、**ロールバック** オプションでトランザクションをロールバックする必要があります。

△ | 注意: **ロールバック オプションは、Wyse Management Suite にインポートされたすべてのデータを消去します。**

ロールバックアクティビティが完了したら、**ビューおよび WES プロファイル** オプションを使用して、再度データをインポートできます。

- Wyse Management Suite では、作成されたグループプロファイルのためのグループレベルの設定ポリシーが作成されます。
- サーバはインポートタスクのイベントを作成します。そこには、グループ数、デバイス数、プロファイル数が含まれています。

トピック :

- [RSP パッケージのインポート](#)
- [Windows ベース WCM リソースのインポート](#)
- [ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート](#)

RSP パッケージのインポート

Wyse Management Suite に RSP パッケージをインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 説明にしたがって、Wyse Management Suite インポートツールを起動します。「[Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)」を参照してください。
- 2 **RSP パッケージ** セクションで、**インポートの開始** をクリックします。
WDM で使用可能な RSP パッケージのリストが表示されます。各 RSP パッケージには、次の属性が表示されます。
 - **名前** : RSP パッケージの名前が表示されます。
 - **タイプ** : RSP パッケージのタイプが表示されます。アプリケーションおよびイメージタイプの RSP パッケージのみがリストされます。
 - **OS** : RSP パッケージに関連付けられているオペレーティングシステムが表示されます。
 - **ステータス** : RSP パッケージのインポートステータスが表示されます。
- 3 インポートする RSP パッケージを選択して、**インポート** をクリックします。

① メモ:

- **検索** ボックスを使用して、リスト内の RSP パッケージを検索できます。**検索** ボックスに RSP パッケージの名前を入力して、**Enter** を押しします。
- 各列のヘッダーをクリックすると、オブジェクトが昇順または降順にソートされます。

パッケージのインポートステータスは、**進行中** と表示されます。RSP パッケージのインポートの所要時間は、RSP パッケージのサイズに応じて、数分から数時間にまでおよびます。パッケージが Wyse Management Suite リポジトリにインポートされると、パッケージのインポートステータスは **インポート済み** に変更されます。パッケージのインポートが失敗すると、パッケージのインポートステータスは **失敗** に変更されます。インポートステータス画面の詳細については、「[RSP パッケージのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。

① メモ:

- 保留中のアップデートの一部またはデフォルトデバイス設定 (DCC) に割り当てられている場合でも、パッケージはインポートされます。
- Raw イメージは有効な RSP パッケージに転送されます。
- ネットワークドライブのディスクサイズが選択したパッケージのサイズより小さい場合は、インポートツールによりエラーメッセージが表示されます。
- **RSP パッケージ** インポート画面では、構成パッケージはインポートできません。**ビューおよび WES プロファイル** オプションを使用すれば、Profile Manager for Windows クライアントの構成パッケージをインポートできます。

デルは、**リポジリアクセスの検証** リンクをクリックして、Wyse Management Suite ローカルリポジトリにアクセスできることを検証することをお勧めします。Wyse Management Suite ローカルリポジトリが設定されている場合は、Wyse Management Suite ローカルリポジトリを入力できます。Wyse Management Suite ローカルリポジトリにアクセスできない場合は、ネットワーク資格情報を入力します。

RSP パッケージのインポートステータスの表示

WDM インポートタスク 画面で RSP パッケージをインポートすると、タスクのステータス画面が自動的に表示されます。ステータス画面には、次の属性がリストされます。

- **インポートされたパッケージ数** : 正常にインポートされた RSP パッケージの総数が表示されます。
- **保留中のパッケージ数** : インポートを保留中の RSP パッケージの総数が表示されます。保留中の RSP パッケージをインポートするには、リンクをクリックして、インポートアクティビティを再度開始します。
- **インポートに失敗したパッケージ数** : インポートに失敗した RSP パッケージの総数が表示されます。失敗した RSP パッケージをインポートするには、リンクをクリックして、インポートアクティビティを再度開始します。

① メモ:

- RSP パッケージのインポートアクティビティが完了すると、次のログイン時または **タスクに戻る** をクリックしたときに、**ステータスの表示** オプションが表示されます。
- 前回のインポートアクティビティの日付は、**RSP パッケージ** タスクセクションに表示されます。

制限

RSP パッケージのインポートには、次のような制限があります。

- 非表示またはアクティブでないパッケージは、WDM からインポートされません。
- ソフトウェアパッケージの名称に **ツール** という語が含まれている場合は、WDM からインポートされません。**イメージなし** は、Default Device Configuration (DCC) でのみ使用される空のパッケージです。

Windows ベース WCM リソースのインポート

Windows ベースの構成パッケージに関連付けられているリソースを Wyse Management Suite にインポートするには次の手順に従います。

- 1 Wyse Management Suite インポートツールを起動します。「[Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)」を参照してください。
- 2 **WES WCM リソース** セクションで、**インポートを開始** をクリックします。
WDM で使用可能な Windows ベース WCM リソースのリストが表示されます。各リソースには、次の属性が表示されます。
 - **名前** : リソースの名前が表示されます。
 - **タイプ** : リソースのタイプ (壁紙または Windows ワイヤレスプロファイルのいずれか) が表示されます。
 - **OS** : リソースに関連付けられているオペレーティングシステムが表示されます。
 - **ステータス** : リソースのインポートステータスが表示されます。
- 3 インポートするリソースを選択して、**インポート** をクリックします。



① メモ:

- **検索** ボックスを使用して、リスト内のリソースを検索できます。**検索** ボックスにリソースの名前を入力して、**Enter** を押します。
- Wyse Management Suite インポートツールでは、アンダースコアとリソース名のプレフィックスがパッケージ名に付いています。対応する設定をインポートすると、ツールは同様に名前をアップデートします。ただし、WDM のデータは変更されず、変更はインポートツールによって内部的に行われます。
- 各列のヘッダーをクリックすると、オブジェクトが昇順または降順にソートされます。

リソースのインポートステータスは、**進行中** と表示されます。リソースが Wyse Management Suite リポジトリにインポートされると、リソースのインポートステータスは **インポート済み** に変更されます。リソースのインポートが失敗すると、リソースのインポートステータスは **失敗** に変更されます。インポートステータス画面の詳細については、「[Windows ベース WCM リソースのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。

Windows ベース WCM リソースのインポートステータスの表示

WDM インポートタスク 画面で Windows ベース Wyse Configuration Manager (WCM) リソースをインポートすると、タスクのステータス画面が自動的に表示されます。ステータス画面には、次の属性がリストされます。

- **インポートされたパッケージ数** : 正常にインポートされたパッケージの総数が表示されます。
- **保留中のパッケージ数** : インポートを保留中のリソースの総数が表示されます。保留中のリソースをインポートするには、リンクをクリックして、インポートアクティビティを再度開始します。
- **インポートに失敗したパッケージ数** : インポートに失敗したリソースの総数が表示されます。失敗したリソースをインポートするには、リンクをクリックして、インポートアクティビティを再度開始します。

① メモ:

- リソースのインポートアクティビティが完了すると、次のログイン時または **タスクに戻る** をクリックしたときに、**ステータスの表示** オプションが表示されます。
- 前回のインポートアクティビティの日付は、**WES WCM リソース** タスクセクションに表示されます。

ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート

プロファイルを Wyse Management Suite にインポートする前に、Windows ベースプロファイルで使用されていた Windows ベース Wyse Configuration Manager (WCM) リソースをインポートする必要があります。Windows ベース WCM リソースのインポートの詳細については、「[Windows ベース WCM リソースのインポート](#)」を参照してください。

グループ、デバイス、プロファイルのインポートのために選択できるビューは 1 つだけです。これは、Wyse Management Suite がサポートするグループ階層の数は、WDM のビューと同様に 1 つだけのためです。

ビューおよび Windows ベースプロファイルを Wyse Management Suite にインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 Wyse Management Suite インポートツールを起動します。「[Wyse Management Suite インポートツールの使用開始](#)」を参照してください。
- 2 **ビューおよび WES プロファイル** セクションで、**インポートを開始** をクリックします。
ビューおよび WES プロファイル 画面に、2 つのオプション **作成** および **ビルド** が表示されます。デフォルトでは、**作成** オプションが選択されています。
- 3 **ビューおよび WES プロファイル** 画面で、次のタスクのいずれかを実行します。
 - 既存の WDM ビューのいずれかを使用して、グループおよびデバイスを作成します。「[既存の WDM ビューを使用して作成](#)」を参照してください。
 - WDM デフォルトグループタイプを使用してグループおよびデバイスを作成するか、WDM でビューとして割り当てられていない Wyse Management Suite に特定のグループ階層を作成します。「[デフォルト WDM グループタイプを使用して作成](#)」を参照してください。
- 4 **インポート** をクリックします。

インポートステータスは、**進行中** と表示されます。ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートの所要時間は、インポートされるデータのサイズに応じて、数分から数時間までおよびます。データが Wyse Management Suite リポジトリにインポートされると、インポートステータスは **インポート済み** に変更されます。データのインポートが失敗すると、インポートステータスは **失敗** に変更されます。インポートステータス画面の詳細については、「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートステータスの表示](#)」を参照してください。

既存の WDM ビューの使用方法

既存の Wyse Device Manager (WDM) ビューのいずれかを使用してグループおよびデバイスを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **ビューおよび WES プロファイル** 画面で、**作成** ラジオボタンをクリックします。
選択したビュー (すべてのデバイス 以外) に割り当てられたグループのリストが表示されます。デフォルトでは、ビューにあるすべてのグループが移行のために選択されます。
- 2 ドロップダウンリストでビューを選択して、**次へ** をクリックします。

① メモ:

- グループ階層が 9 階層以下のビューのみが選択できます。
- 値が空のグループレベルがある場合、グループレベルの名前は NotSet に変わります。ただし、それらのグループレベルが WDM にない場合は、使用可能な親に割り当てられます。
- 壁紙およびワイヤレス用のリソースがプロファイル / 設定にある場合は、リソースファイル名に WDM の構成パッケージ名とアンダースコア (_) がプレフィックスされます。たとえば、packagename_resourceName のようになります。

- 3 必要に応じて、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **グループ** : デフォルトでは、**グループ** チェックボックスが選択されます。
 - **デバイス** : WDM で選択済みのビューにすでに関連付けられているデバイスをインポートする場合は、**デバイス** チェックボックスを選択して、**次へ** をクリックします。
 - **WES プロファイル** : WDM で選択済みのビューにすでに割り当てられている Windows ベースプロファイルをインポートする場合は、**WES プロファイル** チェックボックスを選択して、**次へ** をクリックします。
各グループに割り当てられているデバイスおよびプロファイルのグループ階層が、画面に表示されます。

① **メモ:** デバイスと WES プロファイルの両方を選択したビューに割り当てられる場合は、**デバイス** チェックボックスと **WES プロファイル** チェックボックスの両方を選択します。

WDM のすべての設定の割り当てが選択されます。どんな変更も可能です。特定のグループにデバイス構成を実際に割り当てられるのは、**ビルド** オプションを使用して実行した場合のみです。詳細については、「[デフォルト WDM グループタイプの使用方法](#)」を参照してください。

インポートプロセスを続行するには、ステップ 4 の手順を実行します。「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート](#)」を参照してください。

WDM デフォルトグループタイプ®の使用方法

Wyse Device Manager (WDM) デフォルトグループタイプ®を使用してグループとデバイスを作成する場合、または Wyse Management Suite に特定のグループ階層を作成した後、グループ化が WDM にビューとして割り当てられていない場合は、次の手順を実行します。

- 1 **ビューおよび WES プロファイル** 画面で、**ビルド** ラジオボタンをクリックします。
WDM 内のすべてのデフォルトグループタイプ®がリストされたドロップダウンメニューが表示されます。グループの階層構造は順序で決まります。
グループ階層を作成する場合、最大 9 個のレベルを選択できます。Wyse Management Suite のデフォルトオプションとして、**デフォルトポリシーグループ**®を使用できます。グループ階層は **デフォルトポリシーグループ**®の一部であるため、**デフォルトポリシーグループ**®を含めると、Wyse Management Suite は最大 10 個のレベルで設定されることになります。WDM デフォルトグループ®を使用してグループ階層を動的に作成し、構成パッケージをグループに割り当てることができます。

① メモ:

- WDM の **すべてのデバイス** ビューは、インポートできません。
- 複数の WDM 構成パッケージをグループに割り当てることはできません。
- WDM のビューを複数持つことはできますが、Wyse Management Suite にインポートできるビューは 1 つだけです。WDM の既存のビューをインポートせずに、**ビルド オプション**を使用してグループ階層を作成し、インポートアクティビティを完了することもできます。
- ビューに割り当て済みのプロファイルがなく、WDM で専用の JSON 構成パッケージを使用している場合は、構成パッケージを選択して必要なグループに割り当てることができます。

- 2 ドロップダウンメニューで、グループタイプを選択します。グループ階層を作成する場合は、ドロップダウンメニューの横にあるプラス記号 (+) をクリックして、グループタイプを追加します。いずれかのレベルのリストでデフォルトグループタイプを選択すると、同じグループタイプが再度リストに表示されることはありません。

① メモ:

- 値が空のグループレベルがある場合、グループレベルの名前は NotSet に変わります。ただし、それらのグループレベルが WDM にない場合は、使用可能な親に割り当てられます。
- 壁紙およびワイヤレス用のリソースがプロファイル / 設定にある場合は、リソースファイル名に WDM の構成パッケージ名とアンダースコア (_) がプレフィックスされ、packagename_resourcename のようになります。

- 3 必要に応じて、次のオプションのいずれかを選択します。

- **グループ** : デフォルトでは、**グループ** チェックボックスが選択されます。
- **デバイス** : 作成したビューのグループにデバイスを関連付けるには、**デバイス** チェックボックスを選択して、**次へ** をクリックします。
- **WES プロファイル** : Windows ベースプロファイルを作成したビューに割り当てるには、次の手順を実行します。
 - 1 **WES プロファイル** チェックボックスを選択して、**次へ** をクリックします。
 - 2 **プロファイル** ドロップダウンリストで、プロファイルを選択します。
 - 3 **グループ** ドロップダウンリストで、グループを選択します。

- ① **メモ:** プロファイルとグループをさらに追加するには、ドロップダウンメニューの横にあるプラス記号 (+) をクリックして、プロファイルおよびグループを追加します。グループ階層を作成する場合、グループレベルが **Wyse Management Suite** のサポート最大レベルの 9 を超えないように注意してください。

デバイスと Windows ベースプロファイルの両方を作成したビューに割り当てる場合は、**デバイス** チェックボックスと **WES プロファイル** チェックボックスの両方を選択します。

インポートプロセスを続行するには、ステップ 4 の手順を実行します。「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート](#)」を参照してください。

ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートステータスの表示

WDM インポートタスク 画面でビューおよび Windows ベースプロファイルをインポートすると、タスクのステータス画面が自動的に表示されます。ステータス画面には、次の属性が表示されます。

- **インポートされたグループ数** : 正常にインポートされたグループの総数が表示されます。
- **インポートされたプロファイル数** : 正常にインポートされた Windows ベースプロファイルの総数が表示されます。
- **インポートされたデバイス数** : 正常にインポートされたデバイスの総数が表示されます。
- **インポートに失敗したグループ数** : インポートに失敗したグループの総数が表示されます。失敗したグループをインポートするには、ロールバックアクティビティを実行して、グループをもう一度インポートします。
- **インポートに失敗したプロファイル数** : インポートに失敗した Windows ベースプロファイルの総数が表示されます。失敗したプロファイルをインポートするには、ロールバックアクティビティを実行して、プロファイルをもう一度インポートします。
- **インポートに失敗したデバイス数** : インポートに失敗したデバイスの総数が表示されます。失敗したデバイスをインポートするには、ロールバックアクティビティを実行して、デバイスをもう一度インポートします。

① メモ:

- ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポートアクティビティが完了すると、次のログイン時または **タスクに戻る** をクリックしたときに、**ステータスの表示** オプションと **ロールバック** オプションが表示されます。ロールバック機能の詳細については、「[ロールバック機能](#)」を参照してください。
- 前回のインポートアクティビティの日付は、**ビューおよび WES プロファイル** タスクセクションに表示されます。

ロールバックの機能

Wyse Management Suite インポートツールには、Wyse Management Suite にインポートされたすべてのグループ、デバイス、プロファイルを消去するための **ロールバック** オプションがあります。

△ 注意: **ロールバック** オプションは、Wyse Management Suite にインポートされたすべてのデータを消去します。Wyse Management Suite 管理者が作成したあらゆるグループ、デバイス、プロファイルは Wyse Management Suite から削除されます。

ロールバック後に、ビューおよびプロファイルのインポートアクティビティを再度実行できます。

ロールバックを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 **WDM インポートタスク** 画面に移動します。
- 2 **ビューおよび WES プロファイル** 領域で、**ロールバック** をクリックします。Wyse Management Suite に登録済みのデバイスがある場合は、ロールバックプロセスを続行するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。
- 3 **ロールバック** をクリックします。
ロールバックプロセスを完了するのに要する時間は、Wyse Management Suite にインポートされているデータのインベントリのサイズに依存します。

① **メモ:** **ロールバック** 機能は、ビューと Windows ベースプロファイルに対してのみサポートされます。

Wyse Device Manager から Wyse Management Suite へのデバイスの切り替え

Wyse Device Manager (WDM) から Wyse Management Suite へのすべてのデバイスのインポートが完了すると、Wyse Management Suite コンソールのデバイス登録ステータスは **事前登録済み** と表示されます。

Windows Embedded Standard、Windows 10 IoT Enterprise、ThinLinux、SUSE Linux デバイスを WDM から Wyse Management Suite に切り替えるには、RSP パッケージを導入します。RSP パッケージを導入すると、接続が WDM から Wyse Management Suite に変更され、Wyse Device Agent (WDA) が新しいバージョンにアップグレードされます。

ThinOS デバイスを WDM から Wyse Management Suite に切り替えるには、INI パラメータを導入します。

① メモ:

- グループ内のデバイスごとに、デバイスがグループに事前登録されます。テナント内に MAC アドレスが存在すると、事前登録は失敗します。インポートデータに MAC アドレスが重複したデバイスがある場合は、同じ MAC アドレスを持つ最初のデバイスがインポートされます。
- Wyse Management Suite は、MAC アドレスを使用して、デバイスを、事前登録された既存デバイスと一致させます。MAC アドレスが正しい場合は、事前登録済みデバイスのグループ **ownerid** が返されます。MAC アドレスが正しくないか利用できない場合、デバイスは管理対象外グループに配置されます。

WDM から Wyse Management Suite へのデバイスの切り替えが完了すると、Wyse Management Suite コンソールのデバイス登録ステータスは **登録済み** に変更されます。

トピック :

- [対応オペレーティングシステム](#)
- [RSP パッケージの ThinLinux デバイスへの導入](#)
- [RSP パッケージの SUSE Linux デバイスへの導入](#)
- [RSP パッケージの Windows ベースデバイスへの導入](#)
- [INI パラメータの ThinOS デバイスへの導入](#)

対応オペレーティングシステム

デバイス切り替え機能は、次のオペレーティングシステムでサポートされます。

- Windows Embedded Standard 7 (32 ビット)
- Windows Embedded Standard 7 Professional (64 ビット)
- Windows Embedded 8 Standard (64 ビット)
- Windows 10 IoT Enterprise (64 ビット)
- ThinLinux
- SUSE Linux Enterprise
- ThinOS および ThinOS Lite

RSP パッケージの ThinLinux デバイスへの導入

RSP パッケージを ThinLinux ベースのデバイスに導入するには、次の手順を実行します。

- 1 [Dell Digital Locker](#) から RSP パッケージをダウンロードします。
- 2 ダウンロードした RSP パッケージを、Wyse Device Manager (WDM) バージョン 5.7.2 以降に登録します。
- 3 **その他のパッケージ** セクションで登録した RSP パッケージを選択して、**パッケージスクリプト** をクリックします。
パッケージスクリプト画面が表示されます。
- 4 **編集** をクリックして、サーバ URL の RSP パッケージスクリプトの Wyse Management Suite サーバの URL を指定します。
たとえば、`"/bin/sh/tmp/deviceSwitchOver.sh https://wmserver.wms.com:443"` のように指定します。
- 5 **保存** をクリックします。
- 6 WDM で RSP パッケージを ThinLinux デバイスに導入します。WDM を使用した RSP パッケージのインストールについては、[Dell.com/manuals](#) の『Wyse Device Manager v5.7.2 Administrator's Guide』(Wyse Device Manager バージョン 5.7.2 管理者ガイド) を参照してください。

RSP パッケージの SUSE Linux デバイスへの導入

RSP パッケージを SUSE Linux Enterprise ベースのデバイスに導入するには、次の手順を実行します。

- 1 [Dell Digital Locker](#) から RSP パッケージをダウンロードします。
- 2 ダウンロードした RSP パッケージを、Wyse Device Manager (WDM) バージョン 5.7.2 以降に登録します。
- 3 **その他のパッケージ** セクションで登録した RSP パッケージを選択して、**パッケージスクリプト** をクリックします。
パッケージスクリプト画面が表示されます。
- 4 **編集** をクリックして、次の手順を実行します。
 - a RSP パッケージスクリプトのタグ <WMS サーバの URL> に、Wyse Management Suite サーバの URL を指定します。
 - b RSP パッケージスクリプトのタグ <MQTT サーバの URL> に、通知サーバの URL を指定します。
 - c RSP パッケージのタグ <グループトークン> に、グループトークンを指定します。たとえば、`"/bin/sh/tmp/deviceSwitchOver.sh https://wmserver.wms.com:443 wmserver:1883 defa-quarantine"` のようにします。
- 5 **保存** をクリックします。
- 6 WDM を使用して、パッケージを SUSE Linux デバイスに導入します。WDM を使用した RSP パッケージのインストールについては、[Dell.com/manuals](#) の『Wyse Device Manager version 5.7.2 Administrator's Guide』(Wyse Device Manager バージョン 5.7.2 管理者ガイド) を参照してください。

① **メモ:** デルは、RSP パッケージスクリプトでは、管理対象外グループトークン (defa-quarantine) を使用することをお勧めします。Wyse Management Suite にデバイスを登録すると、デバイスがグループに移動します。

RSP パッケージの Windows ベースデバイスへの導入

RSP パッケージを Windows ベースのデバイスに導入するには、次の手順を実行します。

- 1 [Dell Digital Locker](#) から RSP パッケージをダウンロードします。
- 2 ダウンロードした RSP パッケージを、Wyse Device Manager (WDM) バージョン 5.7.2 以降に登録します。
- 3 **その他のパッケージ** セクションで登録した RSP パッケージを選択して、**パッケージスクリプト** をクリックします。
パッケージスクリプト画面が表示されます。
- 4 **編集** をクリックして、サーバ URL の RSP パッケージスクリプトの Wyse Management Suite サーバの URL を指定します。
たとえば、`"C:\Temp\WESMigrationUtil.exe WDA_14.0.0.108_Unified.exe https://wmserver.wms.com:443" "+"` のように指定します。
- 5 **保存** をクリックします。
- 6 WDM を使用して、パッケージを Windows ベースデバイスに導入します。WDM を使用した RSP パッケージのインストールについては、[Dell.com/manuals](#) の『Wyse Device Manager version 5.7.2 Administrator's Guide』(Wyse Device Manager バージョン 5.7.2 管理者ガイド) を参照してください。



① | **メモ:** システムは、パッケージの導入プロセス中に 3 回再起動します。

INI パラメータの ThinOS デバイスへの導入

デバイスが ThinOS バージョン 8.4 以降で実行されていることを確認します。INI パラメータの ThinOS ベースのデバイスへの導入は、次の手順で行います。

- 1 次の INI パラメータを指定して、wnos.ini ファイルを作成します。

表 5. INI パラメータ

ThinOS v8.5 ベースのデバイス	ThinOS v8.4 ベースのデバイス
AutoLoad=1	AutoLoad=1
SignOn=1	SignOn=1
WDAService=yes\ Priority=WMS	WDAService=yes\ Priority=CCM
WMSEnable=yes\ Server=<Server URL>\	CCMEnable=yes\ CCMServer=<Server URL>\
CAValidation=no\ Override=yes	GroupPrefix=<Prefix>\ GroupKey=<Key>\ MQTTServer=<Server URL>\ CAValidation=no\ Override=yes

① | **メモ:** ThinOS Lite デバイスの場合は、表にリストされているのと同じ INI パラメータで、**xen.ini** ファイルを作成する必要があります。

- 2 Wnos.ini ファイルを、Wyse Device Manager (WDM) サーバの C:\inetpub\ftproot\Rapport\WTOSCONFIG\WNOS フォルダに置きます。

① | **メモ:** ThinOS v8.5 ベースのデバイスのグループトークン情報を指定する必要はありません。デバイスはデフォルトのポリシーグループに登録され、グループトークンは Wyse デバイスエージェントのユーザーインターフェースで自動的に更新されます。

- 3 WDM Web UI の **Wyse ThinOS** ページで、**チェックイン時の WTOS INI パス オプション** を有効にします。WDM Microsoft 管理コンソール (MMC) で、**コンフィグレーションマネージャ** の **プリファレンス** にあるオプションを有効にします。
- 4 WDM でデバイスを再起動します。

移行後の処理

Wyse Device Manager (WDM) から Wyse Management Suite にインポートしたデータを検証します。ファイルの総数と合計容量の比較には、イベントログを使用します。

データが正常に移行されたことを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 Wyse Management Suite にログインします。
- 2 **ダッシュボード** ページで、WDM からインポートしたデバイスの総数を検証します。
- 3 **ダッシュボード** ページで、WDM インポートアクティビティのイベントサマリを検証します。
- 4 **グループおよび設定** ページで、WDM からインポートしたグループとポリシーを検証します。
- 5 **グループおよび設定** ページで、インポートしたグループをクリックし、対応する設定やリソースを検証します。
- 6 **デバイス** ページで、WDM から切り替えたデバイスを検証します。リアルタイムコマンドを実行すると、コマンドが Wyse Management Suite に応答していることを検証できます。
- 7 **アプリケーションおよびデータ** ページで、WDM からインポートしたパッケージを検証します。

Wyse Management Suite インポートツールのアンインストール

Wyse Management Suite インポートツールをアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 **コントロールパネル** に移動して、**プログラム > プログラムと機能** の順にクリックします。
- 2 プログラムリストで、**Wyse Management Suite インポートツール** をクリックします。
- 3 **アンインストール** をクリックします。
Wyse Management Suite インポートツールのアンインストーラ 画面が表示されます。デフォルトでは、**削除** ラジオボタンが選択されています。
- 4 **次へ** をクリックします。
アンインストールが完了すると、アンインストール完了のメッセージが表示されます。
- 5 **終了** をクリックします。

Wyse Management Suite インポートツールのインストーラを使用しても、Wyse Management Suite インポートツールをアンインストールできます。

- 1 デバイス上で **WMS_Import_Tool.exe** ファイルを実行します。
Wyse Management Suite インポートツールのアンインストーラ 画面が表示されます。デフォルトでは、**削除** ラジオボタンが選択されています。
- 2 **次へ** をクリックします。
アンインストールが完了すると、アンインストール完了のメッセージが表示されます。
- 3 **終了** をクリックします。

トラブルシューティング

このセクションでは、問題の発生時に、自分で実行できる基本的なトラブルシューティングについて説明します。

- 問題**：移行時に、データのインポートアクティビティが失敗します。

対策：%programdata%\WMS-Import\WMSImportLog.txt ファイルの詳細なエラーログレポートを表示して、インポート失敗の原因がサポート対象外データではないことを確認します。RSP パッケージと Windows ベース WCM リソースがインポートされない場合は、対応インポートステータス画面のリンクをクリックして、データをインポートする必要があります。「[RSP パッケージのインポート](#)」および「[Windows ベースリソースのインポート](#)」を参照してください。グループ、デバイス、プロファイルをインポートできない場合は、データのロールバックを実行してから、インポートアクティビティを再試行する必要があります。「[ビューおよび Windows ベース プロファイルのインポート](#)」を参照してください。
 - 問題**：正しくないデバイス、グループ、またはプロファイルが、Wyse Management Suite にインポートされます。

対策：ビューおよび **WES プロファイルのタスク** 画面で **ロールバック** 操作を実行して、インポートアクティビティを開始します。「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート](#)」を参照してください。
 - 問題**：3,000 を超えるグループと 50,000 台を超えるデバイスをインポートして、インポートツールでロールバック操作を行うと、Wyse Management Suite にアクセスできなくなります。

対策：Dell は、グループのインポートでは 1,500 を超えないようにすることをお勧めします。Wyse Management Suite でサポートされているビューを選択します。
 - 問題**：Wyse Management Suite がインストールされているローカルディスクのサイズ以上のサイズの RSP パッケージをインポートすると、Wyse Management Suite にアクセスできなくなります。

対策：Wyse Management Suite サーバのディスクの空き容量が、1 GB 以上あることを確認してください。
 - 問題**：ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート中、インポートツールを閉じて再度開くと、インポート処理が停止します。インポートステータス画面には、ゼロ値が表示されます。

対策：ビューおよび **WES プロファイルのタスク** 画面で **ロールバック** 操作を実行して、インポートアクティビティを再度開始します。「[ビューおよび Windows ベースプロファイルのインポート](#)」を参照してください。
 - 問題**：SUSE Linux Enterprise デバイスの WDM から Wyse Management Suite への切り替えが失敗します。

対策：RSP パッケージのスクリプトに入力したサーバ URL、MQTT URL、グループトークンが正しいことを確認してください。RSP パッケージで、デバイスを Wyse Management Suite に切り替えてください。
- ① **メモ**: 前回のインポートセッションの詳細情報が必要ない場合は、%programdata%\WMS-Import\WMSMigrationInfo.json ファイルを削除してください。